

「釧路湿原自然再生協議会」

第 13 回 旧川復元小委員会

資 料

平成 22 年 12 月 21 日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

釧路湿原自然再生協議会

－ 第 13 回 「旧川復元小委員会」 －

日時：平成 22 年 12 月 21 日（火） 13：30～15：30

場所：釧路地方合同庁舎 5 階 共用第 1 会議室

議 事 次 第

1. 開 会
2. 第 5 期旧川復元小委員会の委員長及び委員長代理の選出
3. 議 事
 - 1) 旧川復元工事の進捗状況について
 - 2) モニタリング調査結果について
 - 3) 5 年目の施策の振り返りについて
4. その他
5. 閉 会

釧路湿原自然再生協議会
旧川復元小委員会 委員名簿

計：34名

■個人(14名)

(敬称略、五十音順)

No	氏名	所属
※ 1	亀山 哲	国立環境研究所 流域圏環境管理研究プロジェクト 主任研究員
2	神田 房行	北海道教育大学 教授
3	櫻井 一隆	
4	清水 康行	北海道大学大学院 工学研究科 教授
5	新庄 興	
6	杉山 伸一	環境カウンセラー(市民部門)
7	中村 太士	北海道大学大学院 農学研究院 教授
8	早川 博	北見工業大学 社会環境工学科
9	針生 勤	釧路市立博物館 学芸主幹
10	日野 貴	
11	平井 康幸	
12	松本 文雄	
13	三好 英雄	(株)不二木材 代表取締役
14	矢吹 哲夫	酪農学園大学 環境システム学部 生命環境学科 教授

■団体(14名)

(敬称略、五十音順)

No	団体/機関名	代表者名
1	釧路川カヌーネットワーク	会長 加藤 正道
2	釧路市漁業協同組合	代表理事組合長 戸田 晃
3	釧路自然保護協会	会長 神田 房行
4	釧路湿原国立公園 ボランティアレンジャーの会	代表幹事 鈴木 久枝
5	釧路シャケの会	会長 林田 恒夫
6	釧路水産用水汚濁防止対策協議会	会長 柳谷 法司
※ 7	財団法人 日本生態系協会	会長 池谷 奉文
8	さっぽろ自然調査館	代表 渡辺 修
9	標茶西地区農地・水保全隊	隊長 佐久間 三男
10	塘路ネイチャーセンター	センター長 鷺見 祐将
11	特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所	理事長 赤松 里香
12	特定非営利活動法人 生活学舎のんき	理事 佐藤 吉人(福祉環考)
13	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	理事長 黒澤 信道
14	北海道プロフェッショナル フィッシングガイド協会	会長 テディ 齋藤

■オブザーバー(3団体)

(敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	社団法人 十勝釧路管内 さけます増殖事業協会	会長 亀田 元教
2	標茶町農業協同組合	代表理事組合長 高取 剛
3	釧路丹頂農業協同組合	代表理事組合長 瀧澤 義一

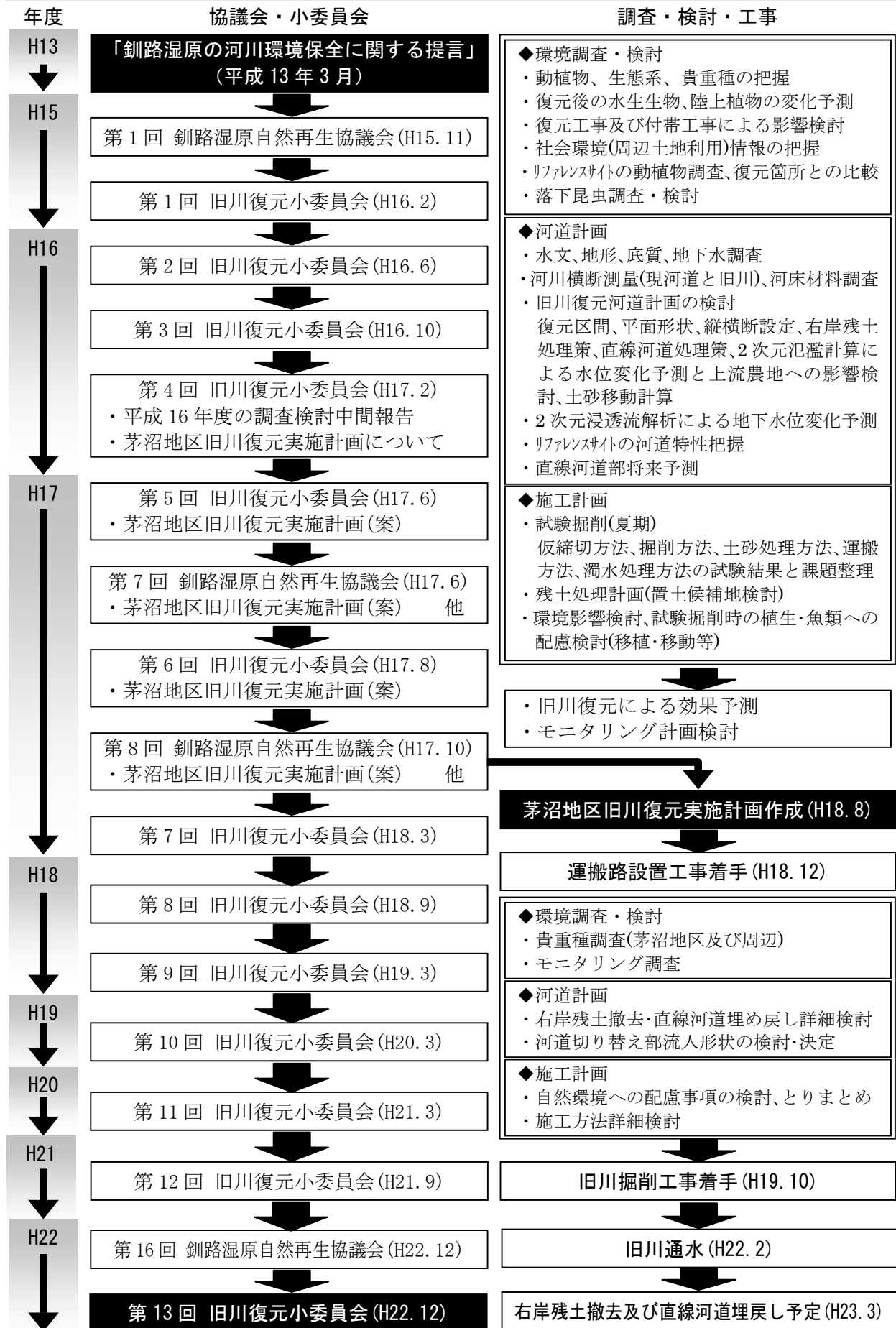
■関係行政機関(3機関)

(敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	部長 安田 修
2	環境省 釧路自然環境事務所	所長 野口 明史
3	標茶町	町長 池田 裕二

※第5期(前期)所属変更

－ 旧川復元計画に関するこれまでの経緯と今後の計画 －



項目	発言概要	回答および今後の検討方針（案）	備考
平成21年度の実施予定、旧川河道切替え部の河岸保護について	<ul style="list-style-type: none"> 流速シミュレーション結果の直線河道締切部の上流側より下流側の流速の方が遅いのはなぜか。 	<ul style="list-style-type: none"> 直線河道から旧川部を流れる過程で流水が溢れ、河道を流れる流量も少なくなるため、上流側より下流側の流速が遅くなっていると考えている。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 最近、大きな出水が頻発している。久著呂川中流部で落差工の工事を実施しているが、その下流側が洗掘されていた。そのような状況を見ると心配になるが、ここは大丈夫なのか。 急カーブしている JR 近接箇所も大丈夫なのか。 氾濫するのが困る、侵食するのが困る、ということであれば、旧川復元を実施せず、直線河道のままにしておけば良い。 旧川復元の目的は、蛇行を復元し、土砂の流入などの下流湿原への負荷の軽減である。氾濫や侵食の増加などは、トレードオフの関係にあり、ある程度やむを得ない面もあると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 右岸残土を撤去しているため、大洪水が発生した場合でも、旧川部に流入する前にある程度右岸側に氾濫する。氾濫せずに旧川部に全ての水が流入する場合と比較すると、旧川部を流れる流量は少ない。 現在の直線河道を掘削する前は、全ての流量が旧川部を流れていた。その状態でも、JR 近接箇所を含め、旧川部の河道平面形状はほとんど変化していないことから、旧川通水後も河道平面形状は大きく変化しないと考えている。 	

項目	発言概要	回答および今後の検討方針（案）	備考
施工手順と配慮事項について、平成22年度の予定	<ul style="list-style-type: none"> 流速のシミュレーション結果で、流速 2.0m/s 以上になる区間があり、流速が早すぎる印象があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 常時 2.0m/s 以上の流速が発生するということではなく、洪水時の一時期に流速 2.0m/s 以上になることがある、という結果を示したものである。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 場合によっては、内岸側にも河岸保護工が必要かもしれない。様子を見て、内岸側の河岸保護工についても検討する必要がある。 今回の結果から絶対に大丈夫と判断するのではなく、どれくらいの流量となるか現時点は予想できないため、様子を見て柔軟に対応すべきだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 工事実施後はモニタリングを行い順応的に対応していきたい。 	

第 13 回 旧川復元小委員会

資料目次

	頁
1. 旧川復元工事の進捗状況について……………	3
1-1. 工事の年次計画……………	4
1-2. 直線河道埋め戻し時の配慮事項……………	5
2. モニタリング調査結果について……………	7
2-1. 平成 22 年度のモニタリング調査内容……………	8
2-2. 平成 22 年度のモニタリング調査結果……………	12
2-3. 今後のモニタリング調査……………	21
2-4. その他の調査結果……………	23
3. 5 年目の施策の振り返りについて……………	24
3-1. 5 年目の施策の振り返り……………	25